

令和7年1月15日 3学期始業式 校長講話

札幌市立あやめ野中学校 校長 大高 雅子

昨年の始業式は能登半島地震でお亡くなりになられた方々への哀悼の意を込め、全校での黙祷からはじまったことを思い出しています。夏には歴史を塗り替える大洪水もあり、何度ももくじけそうになりながら、再建をめざして頑張っているヒトの力、地域の力に、私も復興への願いをもってニュースを観ているところです。こうして長い休みを経て皆さんと無事に時間を共有することは、当たり前ではない幸せであると感じずにはられません。

さて、本日の代表生徒の挨拶、立派でしたね。

3年生代表生徒 さんは、受験生として、人生の岐路に立っていることを意識し、受験に向かうための規則正しい生活のルーティンを確立することに取り組みながら、同時に、仲間や先生との最後のひとときを大切にしようとする思いが伝わってきました。また、1年生代表の さんは、学習の方法について、前回のテストの振り返りを生かして取り組むことを意識しながら、3学期のテストに向けて具体的な目標を達成しようとする意志が伝わってきました。

さて、2学期終業式に皆さんにお話ししたことを覚えてくれていたらとても嬉しく思いますが、自分を伸ばすために大切だと思う3つのことについて、という内容でした。

ひとつ、自分に合ったやり方を意識して身に付けようとする

ふたつ、そのために、素直に、謙虚に受け止め、まじめに努力する

みっつ、その努力が、優しさや思いやり、周りを幸せにする方に向かうこと

一番楽しく、苦しく、嬉しく、悩ましい、そんな2学期は、自分のこと、仲間のこと、チームのことなど、経験機会がたくさんありました。

では3学期はどんな学期なのでしょう。

2学期がサンドイッチの具ならば、3学期は、具をはさむ、“とじる”といった意味で締めくくりなのだと思います。

今日の1月15日から3月15日、25日までは、恐ろしく早く過ぎていきます。

この感覚は、私のような大人でも恐怖を感じるほどです。

皆さんにもその感覚は少し感じることはできるのではないかと思います。

締めくくりの時期ならではの目の前のことをやり遂げていかねばならない

締めくくりながらも、4月から取り組むことの準備をしておきたい

締めくくった後に始まる、環境の変化をイメージして心の準備をしよう

期待と不安が入り混じる春を迎えるまでに、地に足をつけ、何を締めくくり、

今から何を準備するのか、、、先延ばしにせず、向き合わねばなりません。

そして特に、この1年、もっとこうすればよかったと後悔した経験こそが、

あなたの力になっていく源ですから、振り返りを意識し、成果と自信に変え

ていってほしい、強い意志をもって。 それを期待しています。

そして引き続き、「優しさは強さ」、「強い人が優しい人」という、
自分の心にブレない軸をもち、迷ったらそこに戻ってほしいと思います。
あっという間に終わってしまう3学期です。4月からの自分をイメージするこ
とは、完璧な1年を迎えるための準備をするということではありません。
あなただけの目標を、心の中で育てながら過ごすということです。

目標を意識した人の中からしか、目標を達成する人は生まれません。
同様に、夢をもっている人の中からしか、夢を実現する人は生まれないのです。
心を育てる練習というのは、そうやって、自分のことや、なりたい自分
について一生懸命考えることそのものです。
それは、「考える力」、となって、大人になっても、発揮され、自分を助けてい
く力になります。

1年の締めくくりの学期が、「考えること」を意図的・意識的に生み出す毎
日となるよう期待しています。